

本教材の3つの活用手法

— 反転授業を取り入れたアクティブラーニング型授業実践の例 —

反転授業とは

「反転授業」という授業形態は、授業と宿題との役割を“反転”させることで、教室の中では教師と学習者が情報共有や問題解決のためのディスカッションに取り組めるようにする授業形態のことを指します。

伝統的な授業スタイルとして、教師が教室で知識の伝授を行い、学習者は教師から与えられた課題に帰宅後に取り組み、知識の定着と応用力の向上をはかるといったものが主流でした。反転授業では、学習者が、基礎的な知識の習得を配布資料やオンライン教材を用いて自ら行います。その上で、自宅で得た情報や、アイデアを教室に持ち寄り、対話形式で応用練習や発展活動に取り組むことを通して学びます。

本教材と付属教材を組み合わせた アクティビティ

本教材は、こうした反転授業が可能となるよう、本来教師が解説する事項も注釈や言葉の解説、設問の解答として掲載しています。また、活動用のワークシートを課ごとに設け、凡人社ウェブサイト（p.xvi 参照）に掲載しています。「本教材の特徴と内容」と「各課の構成と使い方」で述べた流れで独学や授業にご利用いただけることはもちろんですが、反転授業や、授業の一部で利用する副教材、アクティビティの一環として利用する補助教材としてもご活用いただくことができます。

10 分間の活動を通して学ぶ

「N1 語彙・文法」と「日本の社会文化」

反転授業を取り入れた授業実践に本教材をご活用いただくことで、学習者が、日本のベストセラー書籍を紹介するエッセイを通して、日本の社会や文化に関する幅広い知見を得ることができます。また、教材から読み取った内容を教室でシェアし、個々が持つ知識や考えに基づいて表現する活動を通して日本語能力試験（JLPT）N1 語彙と文法を学ぶこともできます。

ここでは、普段の授業の開始後 10～20 分、あるいは、終了間際の 10～20 分を“読み物を通し

て活動する時間”としてご展開いただく方法と手順について詳しく紹介します。以下に、ピア・リーディング、アクティブ・ラーニング、語彙・文法学習の三つの観点による具体的な利用手法を記します。

■《ピア・リーディングを取り入れた読解活動の手法》

（※所要時間 10～20 分）

各課の本文を見出し（例：第 1 課「議論が尽きない母国語」「ありがちな『間違った日本語』」「間違いのようで間違いではないもの」「私も間違っていたもの」「変わる国語」）ごとに分け、学習者に担当部分を伝えます。学習者は帰宅後、それぞれの担当箇所を、後述する凡人社ウェブサイトに掲載されたワークシートを用いて読む活動に取り組みます。個々の学習者が自宅で読むものは一つの本文の異なる断片ですが、授業では、ワークシートに個々が書き込んだ情報を持ち寄り、チーム、または、教室全体で穴埋めをしながら、集められた断片から本文の全体像を築き上げます。

以下に、本教材を用いてピア・リーディングという協働を通じた情報共有活動を展開することで読みの力を強化する手順について紹介します。

【具体的な手順】

- ① 凡人社ウェブサイト（p.xvi 参照）に掲載されたワークシート「ピア・リーディング用ワークシート（学習者用）」をダウンロードし、学習者の人数分印刷します。ワークシートは課ごとに設けられていますので、該当する課のワークシートをダウンロードしてください。
- ② 活動を行う授業の前の回に、ワークシートを配布し課題となる本文を伝えます。ここで、ワークシートに掲載された本文の見出し（例：第 1 課「議論が尽きない母国語」「ありがちな『間違った日本語』」「間違いのようで間違いではないもの」「私も間違っていたもの」「変わる国語」）の担当者を決めます。学習者の協議で決めるのもよいですが、例えばあみだくじ等によっても、迅速かつ楽しく決めることができます。担当が決まったら、課題として、本文を読んでワークシートを次回までに

完成させるよう伝えます。

- ③ 学習者は帰宅後に、担当となった部分を読みながら、ワークシートに掲載された「150字要約」「興味深い点・驚いた点」について書き込みます。
- ④ 授業当日は、授業の冒頭、もしくは、終了前の10～20分間を利用します。各部分の担当者を別々のグループに振り分け、本文の異なる見出しを担当した学習者で一つのグループを作ります。同じ部分を読んできた担当者が複数名いる場合は複数グループにします。
- ⑤ 凡人社ウェブサイトからワークシート「ピア・リーディング用ワークシート(教室用)」をダウンロードし、A3サイズで印刷したものをグループに1枚ずつ配布します。学習者はグループメンバーと共に、お互いの得た情報を口頭で交換しながら、ワークシートの「各見出しのポイント」と「興味深い点・驚いた点」を穴埋めし、全体像を確認します。
- ⑥ 教師は各グループを見回りながら、不足している情報があるグループと、その情報を持つグループとをマッチングし、お互いに補うようサポートします。
- ⑦ それぞれのグループのワークシートが完成したら活動は完了です。学習者は、ワークシートにグループメンバーの名前が掲載されているかを再度確認した上で、教師に提出します。
- ⑧ 最後に教師が「興味深い点・驚いた点」について学習者に質問し、全体でシェアします。本教材は社会的・文化的トピックに関する記述が豊富に含まれていますので、特に取り上げたいものがある場合は、教師から「先生がおもしろいと感じた点・驚いた点」としてそのトピックを提起することも効果的です。
- ⑨ 授業終了後に、回収したワークシートに教師から一言コメントを入れ、次回の授業時にフィードバックします。

■《アクティブ・ラーニングを取り入れた教室実践の手法》 (※所要時間 15分)

アクティブ・ラーニングは、課題に対して学習者が自らの意見やアイデアをまとめたり、調べたりする活動を行うことで、主体的に考え、表現する力を養う手法です。本教材では、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業実践のために、各課の「発展活動」の中に、「考える」タイプと「調べる」タイプ、そして「話し合う」タイプの活動を設けています。

「考える」タイプの活動では、ベストセラー書籍の内容とその背景、また筆者の考え方を知るというだけでなく、その一歩先に踏み込んで、「自分はどうか考えるか」を問います。できるだけ学習者自身や、学習者が生活する国や地域の問題に引きつけて考えられるようトピックが設定されていますので、学習者が一人でじっくり考えてから、対話したり発信したりする活動に取り組むことができます。

「調べる」タイプの活動は、書籍やインターネット等で自主的に知識を深める力を養うことを目的とした課題が設定されています。学習者の興味や関心に基づき、自ら積極的に知識と理解を深める活動に取り組むことができます。

以上の「発展活動」の解答には、“ヒント”として例を記述しました。“解答”として具体的なものを記してしまうと、逆に活動に枠を設ける結果となってしまうたり、考察や議論の発展を妨げる原因になってしまうことが予想されるためです。あくまで学習者自身の考えを深めるプロセスにおける一つの参考材料として参照してください。本教材を用いて、アクティブ・ラーニングに取り組むための具体的手順について紹介します。

【具体的な手順】

- ① 凡人社ウェブサイトに掲載されたワークシート「アクティブ・ラーニング用ワークシート(学習者用)」をダウンロードし、人数分印刷した上で、配布します。ワークシートは課ごとに設けられていますので、該当する課のワークシートをダウンロードしてください。
- ② 学習者は自宅で、配布されたワークシートに記載された文章の段落ごとの要約文を作成した上で、各課の「発展活動」に取り組み、書き込みます。

- ③ 授業当日は、授業の冒頭、もしくは、終了前の15分間を利用します。学習者を3～5名のグループに分けます。
- ④ 凡人社ウェブサイトからワークシート「アクティブ・ラーニング用ワークシート(教室用)」をダウンロードし、A3サイズで印刷したものをグループに1枚ずつ配布します。
- ⑤ 学習者は情報を持ち寄り、グループメンバーと口頭で情報共有を行った上で、「アクティブ・ラーニング用ワークシート(教室用)」の「発展活動」と「興味深かったグループメンバーの意見・アイデア」に意見交換の内容を書き込みます。
- ⑥ それぞれのグループのワークシートが完成したら活動は完了です。学習者は、ワークシートにグループメンバーの名前が掲載されているかを再度確認した上で、教師に提出します。
- ⑦ 最後に教師が「発展活動」と「興味深かったグループメンバーの意見・アイデア」について各グループに質問をしながら、全体でシェアし、終了です。
- ⑧ 授業終了後に、回収したワークシートに教師から一言コメントを入れ、次回の授業時にフィードバックします。

■《語彙・文型重視の教室活動の手法》

(※所要時間 15分)

本教材では、学習者の語彙や文法の学習をサポートするために、「注釈」「語彙・文型説明」「言語知識に関する設問」を設けています。「注釈」は、学習者にとってなじみの薄い情報のうち、一般の辞書等では調べるのが容易でないものが解説されています。「語彙・文法説明」では、日本語能力試験N1合格に必要な語彙・文法が説明されています。「言語知識に関する設問」では、発音や、正しい表現の四択問題、あるいは、指定された言葉を用いて文を作る、方言と外来語に関する設問等、幅広い形式から言語知識の養成に役立つ問いが多数設けられています。言語知識の養成に役立つ

つ語彙・文型重視の教室活動の具体的手順を記します。

【具体的な手順】

- ① 凡人社ウェブサイトに掲載されたワークシート「語彙・文法学習用ワークシート(学習者用)」をダウンロードし、人数分印刷した上で、配布します。
- ② 学習者は自宅で本文を読みながら、ワークシートに掲載された「150字要約」について書き込んだ上で、言語知識に関する設問を解きます。その際、ワークシートの「わからなかった語彙・文型」に必要なに応じてメモを残し、調べます。
- ③ 授業当日は、授業の冒頭、もしくは、終了前の15分間を利用します。学習者を3～5名のグループに分けます。
- ④ 凡人社ウェブサイトからワークシート「語彙・文法学習用ワークシート(教室用)」をダウンロードし、A3サイズで印刷したものをグループに1枚ずつ配布します。
- ⑤ 学習者は情報を持ち寄り、グループメンバーと口頭で情報共有を行った上で、「語彙・文法学習用ワークシート(教室用)」の「わからなかった語彙・文型」と「グループメンバーで調べた意味」に意見交換の内容を書き込みます。
- ⑥ それぞれのグループのワークシートが完成したら活動は完了です。学習者は、ワークシートにグループメンバーの名前が掲載されているかを再度確認した上で、教師に提出します。
- ⑦ 最後に、教師が「わからなかった語彙・文型」と「グループメンバーで調べた意味」について各グループに質問をしながら、全体でシェアし、必要に応じて解説をした上で終了です。
- ⑧ 授業終了後に、回収したワークシートに教師から一言コメントを入れ、次回の授業時にフィードバックします。